

アセンブリ教育実施要領



アセンブリ教育は専門職連携教育です。専門職連携とは、異なった専門職（他職種）と連携し、患者の健康問題に取り組むことです。単一の専門職だけで医療を行うことは出来ないからです。アセンブリ教育で身につける力は、「コミュニケーション」「チームワーク」「患者中心の考え方」「職種間の連携」です。他職種を尊敬し、チームメンバーと協力して活動することができる医療人となりましょう！

アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

1. アセンブリ教育

アセンブリ教育は専門職連携教育である。その目的、身につける力、概要等については、アセンブリ教育要綱（別紙）に記載されている。

2. 卒業要件

アセンブリ教育は建学の理念に基づき実施される特別教育活動で、単位数には含めないが、卒業に必要な教科であり、アセンブリ教育（アセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ）を修了していないと卒業できない。必要な修了時間は別途定める。但し、アセンブリⅣについては、トライアル中であり、一部の学生のみが参加する。

※医療科学部及び保健衛生学部の一部の学科あるいは学年では、経過措置として単位認定の教科とする。

3. 休講及び補講

休講については、アセンブリ教育センターからの掲示で通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ担当副センター長の判断にて、掲示以外の方法で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

5. 概要

1) アセンブリⅠ

1年次に行うアセンブリ教育活動で、グループワークを中心とした体験学習の活動により「コミュニケーション」を学ぶ。

<アセンブリⅠで身につける力>

「コミュニケーション」

- ・他者に関心を持つ。
- ・他者の話を聴く。
- ・他者に質問する。
- ・自らの学びを省察する。

<活動方法>

1) 活動内容

①講演会

- ・ア셈ブリ講演会（医療と献体及び特別講演。講演内容は変更される場合がある）
- ・その他（全体オリエンテーション、ア셈ブリⅡ活動報告会）

②講習

- ・グループワークを通して「他者に関心を持つ」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を学ぶ体験学習。
- ・2年次以降のア셈ブリ活動に向け、チーム作り・チームでの活動の基本について体験する。

2) 実施方法

①授業形態

- ・「自分を知る」「他者を知る」「見る」「聴く」「質問する」「チームを作る」等をテーマとしたグループワーク中心の体験学習を行う。
- ・学生は6部屋に分かれて受講する（ただし、内容は全ての部屋で共通である）。
- ・学生は各部屋のファシリテーター（教員）の指示により、小グループに分かれてワークを実施する。
- ・ワークにおいて自身や他者がとった行動や言動、感じたことなどについて、振り返りを行う。
- ・振り返りの内容について、グループ内もしくは部屋内で共有する。

②活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日3・4限（医学部においては4・5限）とする。

<評価法>

評価はコミュニケーション講習とア셈ブリ講演会や活動報告会の参加度及び活動内容についての達成度を総合的に評価する。

[注意事項]

- ・ア셈ブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・学年全体で行われるオリエンテーション（初回）、ア셈ブリ講演会（2回）、ア셈ブリⅡの活動報告会は全て出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅱ) ア셈ブリⅡ

2年次に行うア셈ブリ教育活動で、学生が自ら活動計画を立て、主体的に行うプロジェクト制の活動である。「チームワーク」を学ぶ。

<ア셈ブリⅡで身につける力>

「チームワーク」

- ・チームとして明確な目標を定め、プロジェクトをやり遂げる。
- ・チームのために、主体的に一步踏み出す。
- ・問題点を発見し、解決に向けて考え抜く。

<活動方法>

1) チーム

- ・複数の学部・学科の学生が所属する1チーム6名の混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、所属学生はリーダー、サブリーダー、会計、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は学生の主体性を尊重するが、アセンブリ教育センターが決定する。

2) 活動など

- ・活動時間はチームで主体的に決めることができる（平日の授業後、土曜日・日曜日、夏休みなどを含む）。
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、目標、スケジュールなど学生が主体性を持って決定する。
- ・活動目標として地域との連携、ボランティア、医療人としての基盤形成、リサーチマインドの涵養などを盛り込む。
- ・1年間の活動時間（オリエンテーション、活動目標設定、計画書・予算書作成、プロジェクト活動、報告書作成、活動報告会など）は30時間以上とする。
- ・活動費用は、予算申請書を提出後、アセンブリ教育センターの承認を得て配布する。
- ・活動費を使用した場合は、指定のルールに添った会計報告を行う。
- ・プロジェクト計画書、予算申請書、現金出納帳、領収書（出金伝票）貼付用紙、結果報告書、学外活動届、事由書、活動記録簿、評価票などはフォーマットを定める。
- ・活動の終盤はプロジェクト活動を通して得たものや活動内容についてチームワークを発揮し、まとめを行う。
- ・活動終了後は、ポスター発表を行う。
- ・3年次のアセンブリIIIで実施するチーム基盤型学習（Team-Based Learning）の土台となる「チームワーク」を身に着ける。

<評価法>

評価は、プロジェクト活動（70%）と全体活動（30%）を総合的に評価する。

プロジェクト活動の評価のうち、「チームワーク」「他者とのコミュニケーション」と「主体性」について重点的に評価し、活動計画、予算計画、会計報告、活動状況、活動報告書なども含めて総合的に評価する。

全体活動の評価は、オリエンテーション、講演会、報告会の出席状況などについて評価する。

[注意事項]

- ・アセンブリIIは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

III) アセンブリIII

3年次に行うアセンブリ教育活動で、専門職連携教育としてのチーム基盤型学習（Team-Based Learning）である。「患者中心の考え方」を学ぶ。

<アセンブリIIIで身につける力>

「患者中心の考え方」

- ・患者中心に考える。
- ・患者*の健康問題を多職種で解決に向けて取り組む。

*地域においては地域住民、老人保健施設・福祉施設においては利用者となる。

- ・チームでの活動に自らの役割を認識し、意見を述べる。

<活動方法>

- ・活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- ・授業形態としては、チーム基盤型学習（Team-Based Learning）を採用する。
- ・学部・学科の異なる5～6名の学生で混成チームを作る。
- ・各自の学部・学科で学んだ専門性を生かし、学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者の健康問題」の解決にむけて取り組み、具体的なプランを提案する。
- ・事前説明会でアセンブリⅢの目的・目標を理解し、配布した資料を十分に予習して、授業に臨む。
- ・1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストであるiRAT（個人としての準備確認テスト）を行う。その後、同じ問題をチームで話し合っ解決するtRAT（チームとしての準備確認テスト）を行う。tRATにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- ・2日目の授業は引き続き応用課題を行なった後、まとめを行い、自身の目指す専門職の役割について考え、発表する。また、同僚学生による評価（ピア評価）を行う。
- ・3日目の授業は、2日目の最後に実施したピア評価の結果を受けて、自らを振り返る。
- ・アセンブリⅣで学ぶ職種間連携の基礎として、自職種の役割、他職種の役割について理解する。

<評価法>

事前説明で配布された予習資料の内容を充分理解しているか否かを確認する個人テスト（iRAT）、チームテスト（tRAT）、応用課題の成果物、ピア評価、そして学修に取り組む姿勢により、総合的に評価する。ピア評価を行う際、「他者とのコミュニケーション」、「チームワーク」、「患者中心の考え方」といった専門職連携を行う上で必要となる能力についても考慮する。

[注意事項]

- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅳ) アセンブリⅣ

4年次に行うアセンブリ教育活動で、医療・福祉の現場で多職種混成チームの活動に参加する。「職種間の連携」を学ぶ。但し、医学部医学科は、4または5年次に行う。

<アセンブリⅣで身につける力>

「職種間の連携」

- ・異なる専門職（他職種）と連携することの大切さを理解する。
- ・医療現場における専門職連携を理解する。

<活動方法>

- ・参加学生は、医学部5年生、医療科学部4年生、保健衛生学部4年生とする。
- ・異なる学科の学生3名程度を1チームとして活動する。
- ・活動開始にあたりオリエンテーションを実施する。

- ・ 藤田医科大学病院内の専門職チームに平日の半日間同行し、その後、大学に戻り自らの学びを省察する（振返る）（半日）。
- ・ 同行する専門職チームは、認知症ケアチーム、緩和ケアチーム、ICTラウンド、摂食嚥下チーム、NSTチーム、褥瘡対策チーム、排尿自立支援チーム、抗菌薬適正使用チーム、モニタラウンドを予定している。
- ・ 活動日時及び同行するチームは学生により異なる。
- ・ 同行実習後の振返りでは、見学した内容と連携の実際を共有する。
- ・ それぞれの学生は、上記に示す専門職チームの同行と振り返りのセットを異なる2つの専門職チームで実施する。
- ・ 専門職チームの同行及び振り返りの2セットを終了後、同時期に専門職チームの同行を終えた学生全員が集まり、報告会とまとめを行い、学びを共有するとともに専門職連携で必要となるスキルを理解する。